

(別紙2)

#### 第4回花き産業振興方針検討会議事概要

##### 1 日時

平成16年12月16日(木) 14:00 ~ 16:00

##### 2 場所

農林水産省共用第3会議室

##### 3 出席者

【検討会委員】別添のとおり。ただし、石森委員、磯村委員、小川委員、須磨委員及び渡辺委員は欠席

【事務局】吉田花き対策室長他

##### 4 議事概要

【腰岡座長】スケジュール案にあるとおり、今回はこれまでの3回の議論を踏まえ本検討会のアウトプットとなる花き産業振興方針案の骨子について検討したい。本日の議論を踏まえ次回の検討会で花き産業振興方針案をまとめたい。なお、経営展望については現在事務局で検討中。

(吉田花き対策室長から「資料4 新たな花き産業振興方針(案)の概要」「資料5 新たな花き産業振興方針骨子(案)」について説明

【腰岡座長】この骨子案に取り上げられている以外にも、検討すべき重要な骨子があるか。基本方針に入れるべきものがあるかお伺いしたい。後日メールでもよいので、ご意見があればいつでも出していただきたい。特に の基本方針及び の具体的な取組みについてはそれぞれ7つ及び5つにグルーピングしているが項目及び構成はこれでよいか。文言の表現も含めて、意見があればいつでも言っていただきたい。

【瀧 委員】(「花き産業を巡る環境の変化と新たな花き産業振興方針の必要性」について)2頁の下から2番目の カーネーション、キクにバラも入れていただきたい。

【宇田委員】(「花き産業振興のための基本方針1 ホームユース用需要への対応」について)ホームユースに合わせた鉢物、花壇苗とはどういうイメージか。  
また、鉢物、花壇苗について、業務用とホームユース用の比率はどれくらいか。

【吉田室長】適当な統計がなく分類できなかった。

【西岸委員】ミニクラメン、小さなシンビジウムなど小鉢化しているものは、ホームユース用が主体ではないか。

【安藤委員】切花と小鉢は、量を多く買ってもらうという売り方になる。ホームセンターで売られているのは、ホームユース用とイメージされる。また、切花をまとめて箱売りして、1人で年間1億円売るという例もある。花壇苗を土日で2000トレイ売るという例もある。

一方、業務用をもっと増やす努力もあっていい。そのときには、4つの定、定価、定量、定時、定品質を満たすことが必要となる。野菜の例が参考になる。

【近藤委員】短茎多収栽培は、生産コストを低くしてしっかりとやるべき。

【安藤委員】切花が多く市場に入ってくるが、販売先のメドを付けず、多く収穫するために短茎で切っただけの花は、市場の競りでは、一般の切花に比べ、単価が低くなる。

短茎多収栽培で4つの「定」を満たすことは、大規模栽培でないと難しい。

短茎による多収穫の栽培が普及し、切り花一本当たりの生産コストが下がっても、それ以上に販売単価が下がると、多収益にはならない。

短茎というだけで販売単価が低いという市場での問題や、短茎切花の需要として見込んでいるホームユースの需要拡大など、販売流通の面の課題解決に取り組まないと、短茎多収の普及は難しい。

【近藤委員】ホームユース用として短茎切花の供給の増大をするというが、これに見合うホームユース用花きの消費拡大としてどういうことを想定しているのか。

【吉田室長】広報や、日々の生産でホームユース用を意識した品質の切花を安定生産し小売もしっかり売っていくということではないか。

【西岸委員】消費拡大のために、消費者が工夫している飾り方を引き出して、フィードバックしていく、他の人に見せる機会を作ることのも一つの方法である。若い人が工夫しているのを広めてあげたい。自分が作ったものを他の人にも見せたいという気持がある。プロのアイデアだけでなく消費者のアイデアを活かすということをや業界全体で組織的にやっていくこともよいのではないか。寄せ植えなどはプロと違った観点のものが見られる。

【飯塚委員】オープンガーデンのように後押しをしてやれば見せたい人はいっぱいいる。

【瀧 委員】消費拡大には、広報、宣伝にも力を入れるべき。

【安藤委員】ホームユースの普及には文化としての提案が必要。花文化の提案をしているのは、コリウスガーデンの例など、いわゆる市場外のグループや花普及センターなどである。文化の提案は難しいが、花文化の提案により需要を掘り起こし、花を使うと良いことがあるという使い方を消費者に知らせないと、花の消費が増えない。

【西岸委員】(「 の2ブランド化等の推進」について)2番目の の「花」を「切花」とするべき。

【宇田委員】花木、植木に対する提案も入れたほうがよい。

【瀧 委員】観葉植物の業務用をどう考えるか。提案として入れたほうがよい。

【宇田委員】基本方針に総花的に、切花、鉢もの、花壇用苗もの、花木、植木及び観葉植物の業務用など業界全体のことを書くのか、一点に絞って書くのか。性格付けをどうするか。

【西岸委員】(「 3の3生産・流通・小売体制の効率化等の推進」について)業界関係者のねらいは、収益の向上だと思う。全体で収益を高めていくということをもっと書き込んだ方がよい。

【栗原委員】プライダルの際のフラワーシャワーに使う花として、首折れのカーネーションを利用している。ロスとなっていた物がお金になっている。お持ち帰り用ミニブーケとして、短茎の花を生産者に花束加工して提供してもらっている。付加価値を付して生産者は販売することが出来ている。

生産、流通及び小売関係者が積極的に情報交換することによりロスを無くし効率化が図られる。他にもいろいろ出来ることがあるのではないか。

【中村委員】流通段階のロスを削減して効率化するにあたっては、流通時間の削減も重要。例えば、地産地消により長距離輸送を解消し、流通時間を削減するなど。

【近藤委員】3の2番目の は、法人化しているところは別として、一般の個人はやるかどうかとまどっているところである。省力化、大規模化、自動化を一律に進めるには設備投資が相当かかり、生産コストが下げられるかどうか疑問である。個人農家には、無理なものもある。

【中村委員】(「 4の日持ち・鮮度の良さを目指したバケツ低温流通の推進」について)日持ち・鮮度に関する情報を消費者に提供するために、採花日表示を進めていくという方法もあるのではないか。

【宇田委員】一般の食品の表示は、生産日と賞味期限の2つの考え方がある。消費者に鮮度の情報を提供し、輸入品との差別化により消費拡大を図るということもある。花にも、採花日表示をしようというグループはあるが、業界の合意にはなっていない。

しかし、生産者も休日をサラリーマン並みに休むということになると、花も毎日咲くし、市場にも休みの日があるという事情があるので、採花を出荷直前にするのは難しい。

採花日が出荷日直前でないと販売価格が低くなるという問題を解決できない限り、採花日表示を進めるのは難しい。

【腰岡座長】日持ち・鮮度の良い花を消費者に供給するためには、採花日より日持ちを表示する方が良い。

【近藤委員】本件は、トレーサビリティの普及との関係でも出てくる論点である。

【宇田委員】切花は、鮮度と日持ちはイコールではないにもかかわらず、採花日が新しいものが日持ちすると消費者は誤解していると思う。  
それは、我々技術者の説明不足もある。

【安藤委員】新鮮さを武器にして売ろうというグループには、採花日を表示しようという動きがある。鮮度で売ろうとする人の表示方法も確保すべき。

【中村委員】鉢物についても新鮮さのニーズはあると考えられる。

【飯塚委員】採花日表示により、鮮度情報の提供がなされているということで切花のブランド化が図れる。しかし、採花日を入れると、採花日が古くなると日持ちのする花でも買い控え、ロス率が高くなる。

【宇田委員】また、採花日ではなく、つぼみの開花程度で判断されて買われている。消費者は今日切ったものでも開いているものには手を出さない。

【近藤委員】鮮度・日持ちの良さに関する情報としては、出荷日を基準に考えている。日持ちの良い花を提供する方法としては、市場としては低温流通に取り組むのがよいと思う。

【瀧 委員】生産者名が最終的には重要。生産者名を表示することにより、生産者に日持ちの良い花を出荷するという自覚を持たせることが重要。鮮度・日持ちの良さに関する情報として何を消費者に提供するかは、生産者の責任で判断して表示することにすればよい。

【西岸委員】新花き生産流通システム検討会では鮮度を客観的に表示する方法を検討したが、出荷日が良いという意見が多かった。出荷日は取引上明確であり、出荷伝票の記録が残っている。採花日は客観的な証拠が無く証明が難しい。

【安藤委員】出荷日は、販売日の2日前になる切花が多い。

【西岸委員】花束加工だと、加工のために販売日までに更に2日位掛かる。

【中村委員】客観的証拠の有無という信頼性の問題が出てくるが、物日だと、出荷日のかなり前に採花し、低温貯蔵して、物日に合わせて出荷する人もいと聞く。花屋・消費者にとってマイナスのイメージは大きい。

【安藤委員】生産者グループにとっては出荷日により差別化を図ることができる。最後の「必要」を「重要」に変えた方がよい。

【腰岡座長】「 の6花きの輸出」について、輸出したものが勝手に増殖され輸入されてしまうことがある。知的財産権の問題もある。

【瀧 委員】韓国から輸入されるバラの中には、日本の品種を使って、かつ、ロイヤリティを支払っていないものもあると聞いている。生産者にとっては、不公平な競争となっている。

【飯塚委員】(「 の7花き産業の環境負荷の低減について)農薬取締法が改正され、花で使える農薬が少ない。効果の有る農薬が使えなくなり、効果の小さい農薬を使用するということは、かえって多く使用することになる。花で使える農薬の登録を簡便化できないか。

【腰岡座長】花については、品目のグループ化で登録するという動きをしている。

【児玉補佐】花きの適用農薬を増やさなければならないと考えており、都道府県に呼びかけているところ。

【宇田委員】海外のMPSなどの動きがあり、MPS GAPは国内産地に大きな影響を与え始めている。MPSやMPS GAPをブランド化につなげられないか。

【安藤委員】環境負荷低減の対応のために労力を要するが、植物には環境負荷低減の作用だけでなく、サンセベリアのように室内に置くとプラス因子を増やすという作用もある。

【飯塚委員】(「 具体的な取り組み1生産面からの取り組み(2)生産・流通・小売体制の効率化等の推進」について)ホームユース用のブランド化を考えると、ユーザーが花を飾る環境に合わせた品種の育成ということを考えていかなければならない。シクラメンの場合、生産現場では10~20度ぐらいで育てられるが、実際に置かれる室内の温度が以前に比べて非常に高くなっている。シクラメンの適温は15度程度であり、23度以上のところに置かれると日持ちがしなくなる。プリムラも6-7度が適温。このため近年需要が落ちている。

【西岸委員】(「 の1の(5)国産花きの輸出」について)日本産ブランドが輸出には必要。中国では韓国のものが、日本産と偽って売られている。輸出のときに日本産ブランドの保証(業界が保証)、各産地のブランドも必要だが日本産ブランドとして認証して統一マークで輸出していくことも重要ではないか。日本の業界が認知したブランドシステムが作れないか。

【中村委員】(「 の2中間流通・加工面からの取組(1)ホームユース用需要への対応」について)ホームユースとしてスーパーマーケットにも販売を広げるなら、花の知識のある人が売場にいるとよい。こうした人の育成が必要。消費者に花の知識をきちんと伝えなくてはならない。

【安藤委員】その点については、グリーンアドバイザー等の育成をしているが、人材育成の必要性も書いた方がよい。

【宇田委員】切花に関しては、カットフラワーアドバイザーもある。

【瀧 委員】(「 の3の小売面からの取組(5)花き産業負荷の低減」について)鉢物でもリターナブルトレイ、フラコンなど再利用されている流通容器もある。流通容器の再利用についても入れて欲しい。

【近藤委員】(「5花き産業全体の取組」について)トレーサビリティについて骨子案では書かれていないが、今後検討が必要になるのではないか。

【安藤委員】ICタグを花きで利用することが検討されているか。

【西岸委員】鉢物ではICタグが利用できるのではないか。

【安藤委員】トレーサビリティの時代になったが、花は品種を作った人の情報が販売のときに消費者に伝わっていない。品種の開発における育成者の情熱とか思いなどを消費者の感性につなげたら、もっとその花に対する消費者の愛着がわくなど、ブランド化につながるものと思う。

【中村委員】需要拡大のため、母の日を母のウィークにしたらどうか。

【近藤委員】キーワードをスローガンとなるように、振興方針の中に書き込めないか。

【宇田委員】需要拡大のために花の品種名称の整理は必要。商品名だと何の花か分からない。園芸講習会するときや消費者が買った花について調べようとするときに不便である。

【吉田室長】JFコードを普及して、共通言語となればよいと思う。

【西岸委員】JFコードの普及により状況は改善されていく。

【瀧 委員】(「推進体制の整備」について)低コスト品種の育成を入れられないか。例えば、バインダーでまとめてめて刈れるように一斉に咲く小菊とか。

【腰岡座長】刈ってそのまま、出荷できる程度まで開花が揃う品種はまだ、育成できていない。

花き産業振興方針検討会委員（敬称略、五十音順）

氏名	所属・役職
あんどうとしお 安藤 敏夫	千葉大学園芸学部教授
いづかいさお 飯塚 勲	（社）日本種苗協会花き部会会長代理
いしもり きよえ 石森 紀代江	イオン（株）ガーデニング・グリナリー商品部 カテゴリーマネージャー
いそむらのぶお 磯村 信夫	（社）日本花き卸売市場協会常務理事
うだ あきら 宇田 明	兵庫県立農林水産技術総合センター園芸部研究主 幹
おがわ こうすけ 小川 孔輔	法政大学経営学部（経営大学院）教授
くりはら ひろゆき 栗原 浩之	（社）日本生花通信配達協会理事
こしおか まさじ 腰岡 政二	（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 花き研究所所長
こんどう たいじ 近藤 泰次	大井川農業協同組合花卉センター長
すま かづえ 須磨 佳津江	キャスター
たき ぶんしん 瀧 文臣	（社）日本花き生産協会副会長
なかむら いちよ 中村 一葉	（有）一葉
にしぎし よしお 西岸 芳雄	（財）日本花普及センター専務理事
わたなべ やすひろ 渡辺 康宏	（社）日本花き生産協会 輪ぎく部会長